

平成24年度社会教育委員会議6月定例会会議録

平成24年6月19日

201会議室

午後7時～

出席者 委員 9名

事務局 3名

1 開 会

【議 長】 台風が接近中だが、お集まりいただき御苦勞様です。先日の吉川英治没後50年記念講演会は、館内がいっぱいで盛況だった。

【課 長】 台風が接近しているので、早めの議事進行をお願いします。

2 報告事項

(1) 市民大学講演会について

(報告資料1)

【事務局】 資料にもとづき報告。来賓を含めて490人参加したが、応募は625人あったので、2割は来なかった。

【議 長】 行かれた方は感想を述べてください。

【委 員】 北方氏の話で、吉川英治の名前の「治」が、当初は「次」だったというのが、新しい発見だった。読む人に感動を与えられる文学の大切さがわかった。

【委 員】 年齢の高い人が多かった。若者が講演者に花束を渡した時は、すごく新鮮だった。今後は、郷土の古典に類するものを何か開拓する方法があれば良い。

【委 員】 吉川氏の話で、B29が落ちた際の遺品を、近くの住職が横田基地に届けた話を聞き、改めて歴史と文化の街だと思った。また、北方氏の真摯な姿勢に打たれた。ぜひ読んでみたい。

【委 員】 PTA関係の本部役員や保護者の方も大勢来ていた。吉川氏は出来物を自分で治したことを、作品にも生かしている。北方氏は、柔らかく、アクティブな印象を受けた。二人とも芯が強い。

【議 長】 吉川氏の家族の中での英治の話は興味深かった。北方氏の講演会のタイトルは、「北方謙三の世界」だったので、吉川英治とはちょっと離れていた。吉川英治にまつわる話を文芸評論家とかが話してもよかったのではないか。また、北方氏の純文学作家としての話をもっと聞きたかった。

(2) 家庭教育講演会について

(報告資料2)

【事務局】 資料にもとづき報告。67人の参加があった。家庭がすべての出発点であり、親の見える所で勉強やご飯を食べる当たり前の生活が大事である。手伝いの時間が低く、逆にテレビを見る時間は長いが、1億人以上の先進国の中では日本が学力トップである。理由は先生の質が良いからである。

【議長】 私の知る範囲で、秋田出身の人は優秀である。

【委員】 東京でも、小金井や府中などは、核になる大学や公務員住宅があって、落ち着いた環境が似ている。特段行うのではなく、学校のことを通常に行っている。

(3) 今後の予定について

(報告資料3)

【事務局】 資料にもとづき、今後の予定を説明。

【議長】 今年の全国社会教育研究会は山梨県なので、日帰りで行けないか。

【事務局】 検討する。

(4) その他

【事務局】 放課後子ども教室が、今週から6小と4小で始まる。6小は火曜日で46人の申し込みがあり、本日は23人来た。4小は金曜日からの予定だが、体験教室には70人超が来た。

【議長】 PTAや学校から話があるのか。

【事務局】 理想はそうだが、そういったところは既に実施済みであり、市から勧めている。家庭や地域の連携を学校という場所で、大人が見守って行っている。

【議長】 お手伝いの募集はどうやっているのか。

【事務局】 5小でボランティアをしていた人のほかは、公募した。ボランティアは、布草履作りやキンボール、囲碁などを教えている。理想は、保護者から協力の申し出があって実施したいところであるが、そういったところは既に実施済みであり、市から勧めている。家庭や地域の連携を学校という場所で大人が見守って行っている。

3 協議事項

社会教育関係団体補助金について

(協議資料1)

【事務局】 資料にもとづき説明。昨年は、文化団体連盟とボーイスカウト連絡協議会に補助金を交付した。文化団体連盟は、22団体あり機関紙の

作成に充てている。ボーイスカウト連絡協議会は、研修費用に充てている。予算は昨年と同様である。

【議 長】 婦人会はなくなったのか。

【事務局】 婦人会活動はなくなった。団体に対する補助金であり、先日の6月議会で、現行の補助金の問題点は何をもって公益性があるか、一回決まると長期化するので、見直しが必要であるとの答弁があった。市では見直しに関する指針を作成予定であり、25年度予算に向けて検討予定である。

【議 長】 新しい見方になって外れる可能性があるのか。

【事務局】 補助金そのものがなくなる場合もある。今年度についても、15万円全てを使わなくてもよいので、議論願いたい。

【議 長】 ガールスカウトは、ボーイスカウトに吸収されたのか。

【委 員】 青梅はおそらく一本化されたと思う。

【議 長】 文化団体連盟の団体数は変わらないのか。

【委 員】 増減はない。

【議 長】 基準はどうなっているのか。

【委 員】 連盟で承認されればよい。

【議 長】 機関紙は年何回発行しているのか。

【委 員】 一回である。

【委 員】 佐藤財団からの助成について、市民に恩恵があるようにする見直しはあるのか。

【事務局】 現在は、国際理解講座の運営に対して助成が出ている。それ以外の事業は、継続について約束できない。今年は子どもに対する助成として、夏に科学教室を実施する。

【議 長】 市が佐藤財団から補助を受けているのか。

【事務局】 共催であり、一部佐藤財団が負担している。

【議 長】 単独で音楽会を行っているが。

【事務局】 市制60周年の際には、市民へのプレゼントとしてゲーデ弦楽四重奏団コンサートが実施されたが、会場手配は市で行った。文化課とも関係するが、行政がどこまで文化と関わりを持つか。掌理団体への助成もそうだが、いずれ課題として意見を伺いたい。

【議 長】 活動が先あって、それに対する補助が順番である。

【委 員】 良い物を市民に還元するのは必要である。掌理団体も要望に応じてやってくれるようになったので、良い方向に進んでいる。

【議 長】 掌理団体は別ではないか。

【事務局】 補助としては一緒である。

【委員】 豊かな文化や、青梅の伝統に対して予算がどれほど投じられているか。何もしないのは通らない。文化について言っている以上は、予算は削るべきではない。苦しい中でも姿勢は必要である。

【委員】 社会教育の中で文化を論ずるのが重要である。いろいろな意味合いがある。家庭教育の身近なところで、文化を豊かにしていく市の助成のあり方を考えていく必要がある。

【委員】 景気が悪い時こそ、力を入れて豊かな環境を援助していく必要がある。

#### 4 その他

##### (1) 派遣委員について

【事務局】 青梅市生涯学習推進市民会議委員と青梅市美術館運営委員会委員の改選について、次回協議予定。

##### (2) その他

【委員】 講演会等は無料で提供しているが、有料にしたらどうか。

【議長】 興味があれば、500円や1,000円でも行くが、内容次第である。

【委員】 他の市は有料でやっている。関心の度合いのよい市民が少ない。先日はファンが大勢来ていた。

【議長】 実験的に一回やってみたらどうか。

【事務局】 社会教育課では実費負担で講座を行っているが、手ごたえとしては、1,000円を超えると難しい。市民会館では年数回市民劇場を実施している。他の市より安い金額の時もあるようである。実験的にするには、市民会館の利用が無料ならいいが有料である。

【委員】 夜回り先生の時もいっぱいだった。

【事務局】 今回も同じくらい入った。

【議長】 時代の関心が高いものを行ってほしい。

【委員】 たくさん行くとよい。

【委員】 天寧寺で寄席や楽器の演奏を行う場合は、会費無しで寄付を出してもらい、カンボジアに送っている。そういったことは可能か。

【事務局】 東日本大震災復興への募金などと同様、おそらく可能である。

【委員】 年何回か行ってもらえるとよい。遠くまで行かなくてもすむ。一か月に一回くらい。普段聞けない有名な方を聞きたい。

【議長】 有名な人は100万ぐらい金額がかかり、簡単ではなく難しい。

次回定例会 7月17日(火)